平成28年6月

関　係　各　位


●全国中学校理科教育研究会
会　　長　　田 中 史 人

●第６３回全国中学校理科教育研究会群馬大会
運営委員長　　下　田　　仁

群馬県のマスコット
「ぐんまちゃん」
27−170177

## 第６３回全国中学校理科教育研究会
## 第29回関東甲信越地区中学校理科教育研究会

# 群馬大会

## 二次（最終）案内

尾瀬ヶ原（水芭蕉と至仏山）

記念講演

群馬県立ぐんま昆虫の森
名誉園長
矢島　稔 先生

●主　催
全国中学校理科教育研究会
関東甲信越地区中学校理科教育研究会
群馬県小学校中学校教育研究会中学校理科部会

●後　援
文部科学省
全日本中学校長会・日本理科教育協会
全国小学校理科研究協議会
ソニー科学教育研究会
国立研究開発法人 科学技術振興機構
群馬県教育委員会・高崎市教育委員会
群馬県市町村教育員会連絡協議会
群馬県中学校長会・高崎市中学校長会
群馬県小学校中学校教育研究会
群馬県教育振興会
（公財）日本教育公務員弘済会群馬支部

●協　賛
（公社）日本理科教育振興協会
（公財）東レ科学振興会 ・（公財）ソニー教育財団

**研究主題**　科学的な資質や能力を育み、豊かな未来を創造する理科教育

**大会主題**　自然との関わりを通して、科学的に探究する力を育む理科教育

**開催期日**　平成28年 8月4日（木）～5日（金）

**開催会場**　高崎ビューホテル・群馬音楽センター・高崎シティギャラリー（高崎市）

第63回全国中学校理科教育研究会群馬大会運営委員会

---

**講　　演**

文部科学省講演　文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官／野内　頼一 先生
「学習指導要領改訂の方向性とこれからの理科教育」

記念講演　群馬県立ぐんま昆虫の森　名誉園長／矢島　稔 先生
「命の重さを伝えていることに気付く理科指導」

**ブース展示**　大会期間中は、教材や書籍関係各社等による展示を行います。

**申し込み**　別紙の通り、下記の全中理群馬大会申込みWebページでお申込みください。
大会参加費　５，０００円（事務手数料５００円を含む）

**連絡・問い合わせ先**　第63回全国中学校理科教育研究会群馬大会運営委員会

HPアドレス ： http://gun-jsg.edu.gunma-u.ac.jp/~jsg-root/02_tyuugakkou/04_rika/index.html


運営委員長
下田　仁（伊勢崎市立第三中学校長）
〒372-0001　伊勢崎市波志江町1903-1
TEL：0270-24-2151　　FAX：0270-24-2150
E-mail：daisanchu1@isesaki-school.ed.jp

事務局長
加瀬　健（群馬大学教育学部附属中学校教諭）
〒371-0052　前橋市上沖町612
TEL：027-231-4651　　FAX：027-231-3164
E-mail：t-kase@gunma-u.ac.jp


**交通アクセス**

**主な都市から高崎までの所要時間**

鉄道利用の場合
東京より約100km ・・・・・・50分
羽田空港より ・・・・・・80分
成田空港より ・・・・・・90分
茨城空港より ・・・・・145分

高速道路利用の場合
東京より ・・・・・・60分
成田空港より ・・・・・120分
茨城空港より ・・・・・・96分

**●車**
国道17号線　和田橋交差点を市役所方面に曲がり約400m
※専用駐車場はありません。城址地下駐車場、城址第二地下駐車場、高松地下駐車場をご利用ください。
（駐車券を会場までお持ちください。割引価格になります）

**●バス**
高崎駅西口より市内循環バス『ぐるりん』にて
都心循環線で「音楽センター前」もしくは
「市役所」で下車徒歩約3分

**●徒歩**
高崎駅西口より約10分

## ご案内

**第６３回全国中学校理科教育研究会群馬大会を、下記の要領で開催いたします。**
**つきましては、ご多忙の折とは存じますが、多数の皆様にご参加いただきたくご案内申し上げます。**
**なお、各所属長におかれましては、理科教育振興のために関係職員への周知並びに参加につきましてご高配を賜りますよう、併せてお願い申し上げます。**

### 研究主題　科学的な資質や能力を育み、豊かな未来を創造する理科教育

### 大会主題　自然との関わりを通して、科学的に探究する力を育む理科教育

### 大会主題設定にあたって

現在我が国では、科学技術の進展とともに、超少子高齢・人口減少社会が進行しており、我々の生活を取り巻く環境は急速に変化している。その中で、自然環境についても、環境破壊やエネルギー問題など、日々刻々と変化している。特に東日本大震災や熊本地震による被災の規模は非常に大きく、自然災害からの復興に関わる課題へは、今後も長期にわたって取り組んでいかねばならない。これからの時代を生きていく子どもたちには、個人の生き方としても、社会の構成員の一人としても、豊かな人間性をもって自ら判断し、自然に配慮した生活や責任ある行動が今まで以上に求められる。

理科教育では、身近な自然現象や日常生活の中の科学的な現象と直接関わり、「不思議だ、なぜだろう」と感じた驚きや気付きを原動力に探究していく。この過程の中で自然の事物・現象を理解し、分析して解釈する力を身に付けることができる。理科で身に付けるこうした一連の科学を探究する力は豊かな人間性の土台であり、責任ある判断・行動の根幹と言える。理科教育が果たす役割は今まで以上に大きい。

これは全中理研究主題にある「豊かな未来を創造」するための「科学的な資質や能力」を伸ばすことに重点化したものである。大会主題の「科学的に探究する力」とは、知的好奇心や探究心をもって自然現象にふれたときの驚きや気づきを原動力として、自ら見いだした問題を解決していく一連の能力のことである。この過程で、自然の精妙さを感じる感性、科学的に追究していく技能、収集した情報から合理的に判断する力、自然を科学的に捉える見方や考え方を育成することができる。また、その主な手立てとして「自然との関わり」に重点を置いた。自分と自然との関わり方を考えたり、振り返ったりしながら，探究活動の中で身につけた科学的な見方や考え方によって改めて自然現象を理解することは、自他の生命を尊重する態度、自然現象を積極的に解明していこうとする意欲、自然を愛する心情を育むことができると考えたからである。

### 開催期日・会場　平成28年 8月4日（木）～5日（金）

＜全体会・ブロック会・分科会＞群馬音楽センター・高崎シティギャラリー
＜役員会・理事会・レセプション＞高崎ビューホテル

### 日　程

**１日目 8月4日（木）**

| 8:30 | 9:00 | 10:30 | 12:00 | 13:30 | 14:30 | 15:30 | 17:00 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 役員受付 | 役員会 | 理事会 | 写真撮影 | 昼食・移動 | ブロック会<br>一般受付 | 開会式 | 文部科学省講演 |

（18:00 よりレセプション）

**２日目 8月5日（金）**

| 8:30 | 9:00 | 12:30 | 13:30 | 15:00 | 15:30 |
|---|---|---|---|---|---|
| 受付 | 分科会 | 昼食移動 | 記念講演 | | 閉会式 |

**※8月6日（土）に、希望者を対象に教育視察を予定しています。**

## 分科会発表者と主題一覧

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1分科会 教育課程 | **身近な自然の事物・現象に興味をもって、科学的に探究し解決していく力を育む教育課程** | | |
| | （岐　阜） | 岐阜市立長良中学校<br>武藤　正典<br>岐阜市立陽南中学校<br>石橋　信弘 | 主体的な問題解決を通して，科学的な見方や考え方を養う理科指導の在り方<br>～学年間のつながりを大切にした単元指導計画の作成と単位時間の指導の工夫～ |
| | （奈　良） | 生駒市立北中学校<br>赤田　令子<br>生駒市立鹿ノ台中学校<br>森田　郁恵 | 奈良先端科学技術大学院大学 (NAIST) との連携<br>～大学教員による先端科学技術の実験・実習～ |
| | （鹿児島） | 鹿児島大学教育学部附属中学校<br>久徳　晋也 | 創造性を発揮して、科学的に探究する生徒を育成する教育課程<br>～アナロジー思考の活性化を通して～ |
| | （私立国立） | 山梨大学教育学部附属中学校<br>宮澤　和孝 | 素朴概念を科学的概念へ変容させる授業<br>～科学的根拠を活用して、新しい概念を獲得する～ |
| | （群　馬） | みどり市立笠懸東小学校<br>岩田　眞樹子 | 大地の歴史への関心を高める教育課程<br>～コノドント館・葛生化石館との連携による地域教材の開発を通して～ |
| 第2分科会 学習指導 | **科学的に探究する能力を育み、自ら学ぼうとする意欲を高める学習指導** | | |
| | （北海道） | 旭川市立神居中学校<br>田中　秀平 | 問いの質を高め、科学的な思考力を育てる理科学習　～探究的な学習により、生徒が「意味ある問い」と考えた「問い」を、仲間との交流により、生徒自身が問い直す指導の在り方～ |
| | （埼　玉） | 熊谷市立別府中学校<br>大澤　正樹 | 資質・能力を育成する指導法の工夫<br>～役割分担による話し合いを通して～ |
| | （香　川） | 高松市立紫雲中学校<br>穴吹　佑太 | 言語活動の充実をはかり、科学的に探究する学習活動を深める学習指導のあり方 |
| | （宮　崎） | 小林市立永久津中学校<br>尾﨑　瑞代 | 科学的な思考力、表現力を高める指導の工夫<br>～思考・表現モデルの開発と実践～ |
| | （群　馬） | 安中市立第一中学校<br>悴田　匡一 | 科学的に探究する能力を育み、自ら学ぼうとする意欲を高める学習指導<br>～自分の考えを表現する活動（グループ討議，レポート作成）の工夫～ |
| 第3分科会 観察・実験 | **自然事象や日常体験に対する探究心を引き出し、科学的な思考を深める観察・実験** | | |
| | （北海道） | 札幌市立上篠路中学校<br>伊藤　達也 | 未来を創造する力の育みにつながる観察・実験<br>～北海道中学校理科教育研究会の研究主題に基づいた３か年の実践研究の紹介～ |
| | （青　森） | 平内町立小湊中学校<br>木村　亮子<br>平内町立東平内中学校<br>乗田　一洋 | 科学的な探究の能力の育成を図る指導法の研究<br>～結果を分析したり、解釈したりする段階を重視した指導過程の工夫～ |
| | （千　葉） | 千葉市立こてはし台中学校<br>水野　麻里子 | 地層の堆積について実感を伴った授業実践<br>～空間的・時間的な地層の理解・千葉県立中央博物館との連携～ |
| | （東　京） | 八王子市立松木中学校<br>菰池　哲也<br>江戸川区立瑞江第二中学校<br>酒井　彰子 | 葉のつくりと働きを考察させる指導の工夫<br>～葉に色水を吸わせてから葉脈標本にして、道管と師管に分ける取組み～ |
| | （三　重） | 朝日町立朝日中学校<br>伊藤　良亮 | 体を動かす仕組み<br>～手羽先の観察を通して～ |
| 第4分科会 環境教育 | **身近な自然に親しみ、　総合的な見方や考え方を育む環境教育** | | |
| | （兵　庫） | 宝塚市立中山五月台中学校<br>矢藤　学 | 「マツの葉に見る大気汚染」ーその研究と実践<br>～教師が研究し、生徒が実践する環境教育～ |
| | （愛　媛） | 松山市立日浦中学校<br>安永　仁美 | 地域の自然を生かした環境教育<br>～緑の少年団活動との関連を図った理科授業の工夫～ |
| | （大　分） | 大分市立上野ヶ丘中学校<br>吉田　克伸 | 地域の自然環境について考える教育活動<br>～大分市の教育プログラム「人と動物のかかわり方」の実践を通して～ |
| | （私立国立） | 筑波大学附属中学校<br>新井　直志 | 中学校３年間を見通した環境教育の計画 |
| | （群　馬） | 高山村立高山中学校<br>奈良　達也 | 河川調査を通して知る身近な自然環境<br>～吾妻郡理科部会の取組と河川水質調査の授業を通して ～ |
| 第5分科会 学習評価 | **目的意識をもって追究する意欲を高めるための指導と評価** | | |
| | （秋　田） | 横手市立横手北中学校<br>奥山　良睦 | 言語活動の充実による「表現力」の指導と評価<br>～「聴いて　考えて　つなげる」授業についての取り組み～ |
| | （山　梨） | 甲府市立西中学校<br>有賀　雄三 | 生徒の科学的概念の形成を目指した評価の工夫<br>～一枚ポートフォリオや実験レポートの工夫を通して～ |
| | （東　京） | 福生市立福生第三中学校<br>野中　康佑 | 学力向上につながる能動的な学びの評価・分析<br>～３年間の物理的領域の追跡を通して～ |
| | （静　岡） | 富士市立富士川第二中学校<br>石塚　洋行 | 主体的な学びを促す評価<br>～書く活動とその振り返りの充実を通して～ |
| | （島　根） | 大田市立第一中学校<br>坂本　昌士 | 自主共同学習における学習評価のあり方 |